

# 社会教育委員



▲たかずやハイキングの様子(富県地区)

## TOPIX

- |            |  |
|------------|--|
| 令和6年 4月19日 | 第1回社会教育委員会議(定例会)を開催しました。《伊那市役所》                                      |
| 令和6年 6月12日 | 長野県社会教育委員連絡協議会総会に参加しました。<br>《長野県総合教育センター》                            |
| 令和6年 7月 2日 | 諏訪・上伊那地区社会教育委員連絡協議会合同研修会に参加しました。<br>《富士見町コミュニティ・プラザ、町民センター》          |
| 令和6年 8月20日 | 第2回社会教育委員会議(臨時会)を開催しました。《伊那市役所》                                      |
| 令和6年 8月29日 | 地域連携・協働フォーラムに参加しました。《伊那市生涯学習センター》                                    |
| 令和6年 9月11日 | 長野県社会教育研究大会に参加しました。《長野県総合教育センター》                                     |
| 令和6年11月22日 | 上伊那社会教育関係者懇談会に参加しました。《伊那公民館》   |
| 令和6年11月27日 | 第3回社会教育委員会議(臨時会)を開催しました。《伊那市役所》                                      |
|            | 伊那市教育委員との懇談会を開催しました。   |
| 令和7年 3月18日 | 第4回社会教育委員会議(定例会)を開催しました。《伊那市役所》<br>(会議に併せ、『社会教育委員発!我がまちいいとこ10選』研修視察) |



伊那市生涯学習基本理念

— 歴史と文化を未来へつなぎ、誰もが心を豊かに育んでいく —





令和6年度第1回社会教育委員会議(定例会)を、令和6年4月19日(金)に伊那市役所で開催しました。本年度事業の取組方針について協議し令和6年度がスタートしました。

社会教育委員の10名です。(任期:令和6年4月～令和8年3月まで)

酒井 照明 会長(伊那地区)  
黒河内 あけみ 副会長(美篁地区)  
小松 由和 委員(富県地区)  
宮原 晴美 委員(手良地区)  
中谷 洋子 委員(東春近地区)  
有賀 恵子 委員(西箕輪地区)  
三澤 隆 委員(西春近地区)  
山岸 加代子 委員(高遠町地区)



田中 秀之 委員(高遠町地区)  
中山 勝司 委員(長谷地区)

#### 社会教育委員 実践活動の取組

伊那市社会教育委員は、  
「社会教育委員による  
実践活動の取組」  
の6つの柱に沿って、活動を  
進めています。



I 現場へ「足」  
を運ぶ  
～机上の空論で  
は意味がない～

II 日頃から「手」に  
汗を握る  
～自分が  
やらずして、  
人には言えない～

VI 腹に納めず  
「口」に出す  
～問われて答え、  
そうでなくても  
言う～

## 6つの柱

III 市民から「顔」  
が見える  
～存在と役割を  
知ってもらう  
ために～

V 深く掘り下げて  
見る「目」を持つ  
～特色を捉え、  
生かし、  
発展させる～

IV 些細な事でも  
聴く「耳」をもつ  
～個を知ることは、  
全容解明の  
第一歩～



### 小松 由和（富県地区）

富県地区の社会教育委員の小松由和です。

社会教育委員は初めての経験ですので、戸惑うことが多く、今は先輩委員の方々に教えていただきながら、また、研修会や講演会等にも参加し勉強させて頂いている状況です。社会教育の範囲の広さと深さと難しさを感じています。

こうした中で、地区の公民館や分館活動、また保育園・小中学校との交流活動等にはできるだけ参加するように心がけています。

特に、子どもたちと地域との交流では、大人の経験・知識・技術等を子どもたちに伝えながら、地域の良さを知ってもらい、逆に子どもたちからは大人が元気を貰っているところです。

最近では、公民館・分館活動に、男性の参加が少なくなってきていますので、私自身も「出来ることをできる時に」をモットーに、多くの皆さんとかわりながら、多くの皆さんを巻き込みながら委員を務めて行きたいと思います。



### 中谷 洋子（東春近地区）

令和6年4月より社会教育委員に就任いたしました。何事も初めての事ばかりで緊張もありましたが、他の委員の方々や生涯学習課の方々のおかげで少しずつ委員の仕事にも慣れてきました。ありがとうございます。

私自身は長年ピアノ教室と学習教室をやって参りました。主に地域の子たちとふれあってきました。年齢、個性の違う一人一人と向き合っの指導です。中には小学生から高校卒業まで続けてくれた生徒も何人かいて、その子の好きな事を伸ばすお手伝いが出来たかなと思っています。また、公民館で活動するコーラスグループのピアノ伴奏も長くさせていただき、このことも私自身にとっては自分が成長できる大きな事でした。現在は女声合唱団で歌うことが私の学びの場となっています。そして社会教育委員としては、美術や歴史のイベント、教育関係の会議などに参加し新たな分野で新しい経験や学びをさせて頂いています。特に令和6年に視察した「いいとこ10選」の3か所（進徳の杜、五郎姫神社・大中屋墓所、西天竜発電所）は、実際に現地を訪れて肌で感じたことが強い印象として残っています。今後も自然体で見るもの聞くものを感じ取って学んでいきたいと思っています。



### 三澤 隆（西春近地区）

社会教育委員の任務についてほとんど知らないまま引き受けて1年経ちます。

県・郡主催研修会の講演、分散会での他地区関係者との意見交換会などで、少しずつではありますが研鑽を積むことが出来たような気がします。また、イベント等参加報告書提出の「宿題」のおかげで、各種行事開催予定へのアンテナも高くするよう心掛けたことで、参加機会も多くなり良かったと思っています。

引き続き、公民館や学校など地域との連携を密に活動したいと考えておりますので、よろしくお願い致します。







## 田中 秀之（高遠地区）

自己を紹介するとなると、自分自身の存在の曖昧さにいつも戸惑ってしまって言葉を失うのですが、恐らくそれは言葉という伝達のツールの不完全さと、実存は本質に先行するという人間の宿命に起因するのでしょうかね。

こんな私ですが、令和6年4月より、伊那市社会教育委員を務めさせて頂いております。

昭和22年に制定された教育基本法の下で育った私は、教育の目的は勉強が出来ることではなく、真理と平和を希求する人間になることだ！と、戦争未亡人の教師から厳しく仕込まれ、平成18年に改正された同法の前文に謳われた「公共の精神」を付加して生活しております。公共の福祉とは簡単に言えば「みんなのため」ということですから、社会に貢献できなくなったら、潔くこの人生の舞台から去るべきだといつも思っております。



## 中山 勝司（長谷地区）

長谷地区の中山 勝司です。長谷地区は買い物・交通弱者問題が深刻で、それに関わる仕事に従事しています。

地元地域の歴史遺跡の価値、継承の重要性を感じていたところ、令和6年度より社会教育委員の委嘱を受けました。

社会教育とは「学校以外の場で行われる教育の総称」で、社会教育委員の役割は「地域の課題、ニーズを市の社会教育行政に反映させる」ことなのですが、一年を振り返り、十分に役目を果たしてきたか反省をしているところです。

研修会で、不登校・引きこもりが話題になりましたが、「自分は委員として何ができるのだろうか？」と考えてしまいました。カウンセラー、専門家をお願いするしかないかな、と。

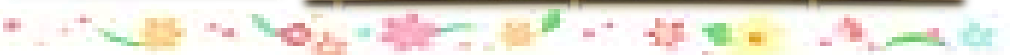
二年目はより前向きに役目を果たして行きたいと思います。



### 前委員さんが表彰されました

長年、社会教育委員としてご活躍いただきました、中村幸子さん、寺田利男さん、高見さゆりさん、中山恵理さんに、長野県社会教育委員連絡協議会から表彰状が授与されました。令和6年6月12日(水)に行われた、長野県社会教育委員連絡協議会総会で表彰式がとりおこなわれました。

中村さん・高見さんが出席され、ステージにて表彰状を授与されました。長年、伊那市の社会教育推進にご尽力いただきありがとうございました。





生涯学習関係イベントや地域の行事等に参加して、感想や良かった点、問題点や課題などを報告書にまとめ、社会教育委員会議で発表することで、委員同士で情報を共有し、また、各担当部署でも、出された意見を事業に生かしています。本年度もたくさんのイベント等が開催されました。その参加報告の中よりいくつかをご紹介します。

## ★ 第46回 高遠町桜大学第1講座 土津神社氏子会長が語る名君・保科正之公 『磐梯山麓の知に祀られる正之公』（高遠町総合福祉センターやますそ）★

正之公が鎮座する墓所と土津神社創建についての講演でした。徳川第2将軍の子として生まれ、21歳で高遠藩主となり、後33歳の時に会津藩主となりました。数々の制度をつくり、民政に力を注ぎまた会津藩と徳川幕府の基礎を築いた名君。

晩年に、正之公は最後のお国入りをを行い、自分の墓所を決め「自分の葬式は神式にのっとなって行え」と遺言し、62歳で亡くなりました。しかし幕府には仏葬儀の規則があり、会津藩との間に意見の対立があり大きな問題が生じたが、徳川のお子「正之」だから許されたのだと思います…と話された。

土津とは、土(つち・はに)は宇宙構成要素の根源であり「万物は土に始まって土に終わるもの」という意味が込められている。正之公の生前の生き方その物がこの神社の名前となっており、またお城からは鬼門の方角にあたることから、死してなおこの地より会津藩を守ろうと思ったようです。



作成された資料は詳細に書かれていて、じっくり読み正之公に少しでも思いを寄せてみたいと思いました。



## ★ 夏休みおいで塾（伊那公民館）★

おいで塾の歴史を振り返ってみると、旧伊那公民館、新装伊那公民館、コロナ禍での実施など、まさにその時代背景に適応した活動メニュー（特に午後）を提供し、子どもたちの学びや育ちを支え、継続してきたことには頭が下がる思いです。

毎年の事ではありますが、4つの小学校、1年～6年の男女の子どもたちが、様々な活動を通して5日間生活を共にすることは、学校では得られないことを学ぶ意義深い体験です。

「押し花学習」「ボランティア活動(紙袋づくり)」では、市社協の方や公民館で活動している方が指導されており、子ども・公民館・地域・行政が一体となり、まさに社会教育の一端を垣間見ているような思いがしました。

特にボランティア活動では、新聞紙の折り方等で、男女、学年関係なく、互いに支え合っている姿・最初気持ちののらなかった低学年の子どもが要領を把握するにつれて喜々として取り組む姿などこれらの姿は「おいで塾」ならではの光景です。

高遠町歴史博物館の見学は、感性豊かな子どもの頃に、自分たちが生活している伊那の地の、歴史・文化的な財産に触れる活動(体験)で大変貴重です。(即時的な楽しさとは異なり、何年・何十年か後に良さが分かる)

本年度も市の新規採用者の皆さんが新任研修を兼ねて、スタッフとして参加してくれ有り難かったです。子どもへの対応の仕方等も誠意があり、好感が持てました。本研修で感得したことは、異業種であっても何等かに役立つと思います。





## ★ 若手アーティスト展「麓芸落合（ろくげいあちあい）」

### オープニング式典（信州高遠美術館）★



テーマになっている「麓芸落合」の意味が分かりませんでした。会場でもパンフレットを読み解読できました。

長野県が日本の中心に位置し、東西の文化が行き交う場所という意味合いで、6名の若い作家の皆さんの作品が展示されていました。

水彩画・アクリル画・写真・彫金・石版等、手法も技法も異なる作品でしたが、どの作品も若い感性と6人の力が交ざり合う空間がまぶしく感じ

られました。大きく羽ばたいていってほしいと思います。

作家の皆さんからは、説明を聞いたり、気さくに質問にも答えてくださったりしました。オープニングコンサートが会場の雰囲気と相まって、ヴァイオリンとピアノの響きが美しかったです。また、ワンドリンクサービスがありがたかったです。



## ★ 歴博秋季企画展「山に育まれて」（高遠町歴史博物館）★

江戸時代から登山が行われ、高山植物の記録がされていたことに感心しました。企画展の名のとおり、昔は「山に育まれて」の日常生活だったと思いました。



山の地図が精巧に作成されているのは、それだけ山に足を運び、山を知り尽くしていたからだろうと思いました。

中村彌六や伊澤多喜男の愛林思想が、今の小中学校で受け継がれていてよかったと思いました。

展示物を見るだけでなく、学芸員さんから詳しい解説を聞くことができ、山に対する見方が深まりました。



## ★ 長谷地区生涯学習講演会「木久蔵流 笑うが一番」（長谷公民館）★



今回は、二代目林家木久蔵さんの「木久蔵流 笑うが一番」という演題の講演会でした。とにかく面白かったです。話に引き込まれていきました。

落語家は何年かかって真打になるのかとか、いろいろなことを教えてくれました。笑うことが元気のもとになるということが、一番心に残りました。

いつも元気のために、「好奇心旺盛・気持ち前向き・食欲」を大切に生きよう

と思いました。本当に楽しい90分でした。

去年は科学についていろいろな実験を、今年は断家と、いろいろな講演会を企画して下さっています。来年も期待しています。





## ★ 文化庁認定記念シンポジウム（高遠町総合福祉センター やますそ） ★

令和6年に「伊那市文化財保存活用地域計画」が、文化庁に認定されたことを初めて知りました。今回のシンポジウムに参加してみて、「伊那市文化財保存活用地域計画」と、「高遠郷土研究会」の活動、「高遠そば」や「中尾歌舞伎」の実践事例が一つの線で繋がった感じがしました。

伊那市文化財保存活用地域計画の冊子がコンパクトにまとめられ、とても見やすく、分かりやすかった。特に基本目標の「知る」・「守る」・「活かす」が端的で、



伊那市の文化財の未来に向けての具体的な「94の措置項目」が位置づいていると感じました。

高遠郷土研究会の北原会長さんの講演からは、「文化財の事をまず知る活動から、うまくネットワークを広め、人を集めていく大切さ」を、改めて痛感しました。帰宅後、講演会資料にあった「高遠を知る50問」をやってみたが、私自身が高遠に関して知っていない・分かっていないことが多かったです。

高遠そばの魅力を語られた地域おこし協力隊の下平さん、中尾歌舞伎についてお話しいただいた中尾歌舞伎保存会会長の中村さん、それぞれの発表はそのものの歴史や由来を再認識するとともに、歴史文化活動の更なる発展につながると感じました。



## ★ 第2回中村弥六シンポジウム（伊那市立高遠中学校多目的ホール） ★

高遠町出身の林学者であり国会議員でもあった中村弥六の生涯を、日本大学名誉教授の高綱博文氏が主催する「中村弥六研究会」のメンバーによるシンポジウムに参加しました。

シンポジウムは四部構成になっており、1988年に放映された信州テレビジョン政策のドキュメンタリー番組「中村弥六の生涯」が嚆矢でした。弥六の生涯を多方面から検証した見応えのある作品で、今見直すことは大いに意義ある企画だと思いました。次に歴史博物館学芸員の福澤浩之さんによる、「高遠の歴史家たち」の講演、国土舘大学准教授の佐野実さんの講演で、「郷土の論理」、最後が横浜市大の金山泰志さんによる最初に観たドキュメンタリー映像の分析で終了しました。



ややもすると学術研究者たちの独りよがりな面が強調されやすいシンポジウムになってしまう弊害をなくすために、番組制作者の篠原弘和氏の苦労話や、ゲストでお越しいただいた中村弥六のお孫さんのお話もお聞きできて嬉しく思いました。今は故人となられた名物町長の北原三平氏や、郷土史家の森下正夫先生の元気なお姿をテレビ番組の中で観ることができて、企画していただいたスタッフの皆様へ感謝です。



## 我がまちのいいところ10選研修視察



深く掘り下げて見る「目」を持つ活動、また、現場へ「足」を運ぶ活動として、各委員が地元の自然、歴史、文化などを推薦し、現地への視察研修を行っています。推薦した委員自身が講師となり、現地を案内します。

伊那市内でも、まだまだ新しいことを知ることが出来、改めて歴史や文化を感じ、学習する機会となっています。

### ★ 中村弥六が整備した「進徳の森」 ・・・ 高遠町 東高遠 ★

峰山寺の裏、保科正之公と交代して高遠城主となった鳥居氏の墓を右に見ながら登って行くと、僧侶の無縫塔の上段にある中村家の墓石を囲むように、ユリノキ、ドイツウヒ等 110 年余の外国産樹木が見事な姿を見せていた。

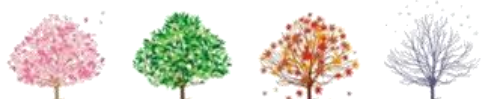


「進徳の森」は、大正元年(1911)の大雨災害時に中村弥六が私費で保全したもの。産地の崩落防止のための植林を行い、境界を明確にするため見分けしやすい外国産樹種を見本林とした。

視察により、高遠輩出の「近代林学の父」中村弥六を知ることができた。



弥六は林業博士というだけではなく、明治 23 年(1890)から大正 5 年(1917)まで帝国議会の衆議院議員に 8 回当選し、27 年間勤めている政治家である。森林関係法に携わり、森林法の原型を作った。19 世紀後半に欧米列強のアジア進出・植民地化に抵抗したアジア主義者でもあり、フィリピン独立革命や中国革命を支援した「布引丸事件」という横領疑惑事件に巻き込まれる(冤罪と主張)。また否決されたものの日本初の普通選挙法案の提出に絡む等政治家としての活動も知ることができた。



### ★ 西天竜発電所 ・・・ 荒井 ★

1918年に富山県魚津で起きた米騒動が全国に飛び火し、コメの増産が国の急務となった中で、伊那地域においても天竜川流域の灌漑施設の整備充実が検討され、諏訪湖の水を流域の水田に引き込むために、西天竜幹線水路が作られました。この水路を利用して無公害な水力発電所事業が計画され、長野県企業局によって1961年に竣工しました。その後設備の充実が図られ大規模改修工事が行われ、2023年10月にはフ

ランス水車2台により最大供給電力3200kw の出力をもち、5,000世帯の電力供給ができる発電所が完成しました。



天竜川の豊富な水量を利用して、灌漑用水と発電用水を同時に取得し、田植え期に水田に回した残りの水量でも効率よく水車を回して発電可能なフランシス水車の導入により、一年を通じて電力供給が可能となり、まさに力強い援軍の登場です。

また、伊那地域に密接した発電所としての位置づけから、災害時の防災拠点としての役割も担いつつ、学習の場所として一般市民にも見学が可能となり、中学2年で学習するモーターと発電の原理を自分の目で確認することができます。



私どもが見学に訪れた際にも、担当の牧内さんにわかりやすく説明していただいたおかげで、電気の知識から災害時の防災拠点としての役割までもがすんなりと頭の中に入りました。

牧内さん以下スタッフの皆さんに感謝申し上げますと共に、これからも市民のための西天竜発電所の維持管理のご尽力をお願い申し上げます。



## ★ 五郎姫神社・大中屋墓所 ..... 高遠町長藤 ★

令和6年、第1回の「我がまちのいいところ10選」研修視察は、田中社会教育委員推薦の五郎姫神社と大中屋墓所でした。



高遠町長藤の民家の途切れた道路から草深い里山の細い道を行くと、苔むした長い石の階段が現れました。苦勞して登ったところに五郎姫神社本殿がありました。とくに目を惹いたのは宮大工白鳥弥四郎が作ったとされる精密な竜や獅子、花鳥などの彫刻が社全体に施されていることでした。1840年建立から私たちが目にする現在まで変わらぬ姿を残していることが驚きでした。

次に訪れた大中屋墓所は墓所ができた当時の村を見渡せる様な小高い場所に、古い墓石が立ち並んでいました。

大中屋（北原家）は酒造業を営んでおり、後に分家し甲州で酒造業を始め現在に至っているということです。



中央の墓石の戒名「玄學院殿了英」は誰か？命日「天正10年3月2日」（織田信忠が甲州征伐で、高遠城を攻め落とした日）との関連はあるのか？この場所に立ち周囲の風景を見渡しながら、歴史のロマンに浸ったひと時でした。



📷 研修視察の帰りに田中委員のお宅も視察しました。📷



## 社会教育委員の会議等の様子

… 第1回社会教育委員会議(4月19日) …



… 第2回社会教育委員会議(8月20日) …



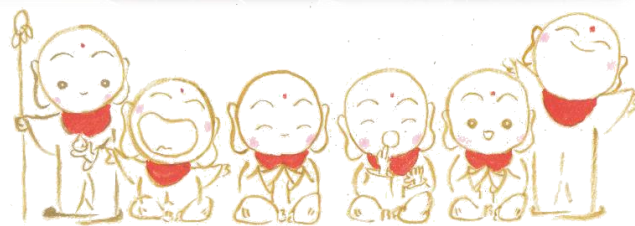
… 教育委員との懇談会(11月27日) …



↑↑おいで塾にて子どもたちと百人一首をする

宮原委員

のびりはせ



↑↑『森の音楽祭 in 春近郷』で歌声披露をする

中谷委員

↑↑『図書館の怖い夜』では、

図書館協議会の有賀委員も参加しました。



～歴史と文化を未来へつなぎ、誰もが心を豊かに育んでいく～

伊那市社会教育委員だより

編集・発行 伊那市教育委員会生涯学習課

〒396-8617 伊那市下新田 3050 番地

電 話:0265-78-4111(内線 2721)

FAX:0265-72-4142

Eメール:sgs@inacity.jp

お問い合わせなどは  
こちらへ

